

## 新行政改革大綱の推進に関する全般的な意見

### 1 大綱の推進について

- (1) 成果報告の記載の仕方が項目ごとにバラつきがある。計画に基づく実施内容をできるだけ細かく記載するのが良い。
- (2) 「成果」と「実績値」の関係について、県民にもわかりやすいように示した方がよい。
- (3) 「実績値」の評価水準について、目標が「～の検討」となっている場合に「C」（検討）と評価しているものがあるが、「B」（計画に掲げる内容（検討）は「実施）」と評価するとも読み取れる。
- (4) 「実績評価」及び「実績値の評価」は自己評価（自己申告）のみが記されているが、内部評価では甘くなりがちであるため、本委員会による外部評定も併記してもよいのではないか。
- (5) 成果を上げている項目も多くある一方で、進捗状況の悪い項目の中に今後の見通しの修正がなされていないものが散見されることが気になる。
- (6) 目標値の下方修正が目立つ。修正について何の基準もなしに下方修正されれば、なしくずしになる可能性が高い。
- (7) 外部委員が報告書のみによって進捗状況を評価することは、特に数値目標の記載がない項目については、困難である。審議時間をしっかり確保し、各項目・事業について説明を受けるか、見学等をした上で、評価できるよう強く望む。

### 2 職員の意識について

- (1) 仕事のやり方を変えるのだという意識を職員が持たなければ、新行政改革大綱を作成する意味がない。
- (2) 全般的に行政改革は進んでいると思う。例えば「公用車管理」については、委員会で議論されその後検討されたようで、柔軟に計画を修正しながら迅速に対応できていた。職員の意識も高く、業務改善に関するPDCAサイクルもしっかり回しており、職員は厳しい行財政状況をしっかり認識していると思うが、一部に努力不足の項目（評価がBやCのもの）も見受けられるので、今後も一層の改革意識を持って取り組んでもらいたい。
- (3) 黒字であることに安心せずに、より課題を抱えている県民への対応や、将来を担う人材育成のために、県税を使うことを考え続けてもらいたい。

### 3 大綱の内容について

- (1) 県民に分かりやすいものにすべきではあるが、職員が使いやすく、改善意識が湧き、仕事がしやすいものにすべき。
- (2) 「県民目線の県政の実施」を掲げているのであれば、県民や市町村に対する県の役割をどう位置付けるかを示すべき。
- (3) 県の職員が行ってきた事業を、指定管理者やNPO・ボランティアの運営に代えて経費を削減するということは、民間の安い人件費を活用するだけのことであって、県職員としての努力・工夫が見られず、甘さを感じる。